

2015北東アジア経済発展国際会議
セッション A
北東アジアにおけるウクライナ問題の諸相
ウクライナ危機とロシアの東方シフト

2015年1月29－30日
朱鷺メッセ
法政大学 下斗米伸夫

Sea Changeの時代

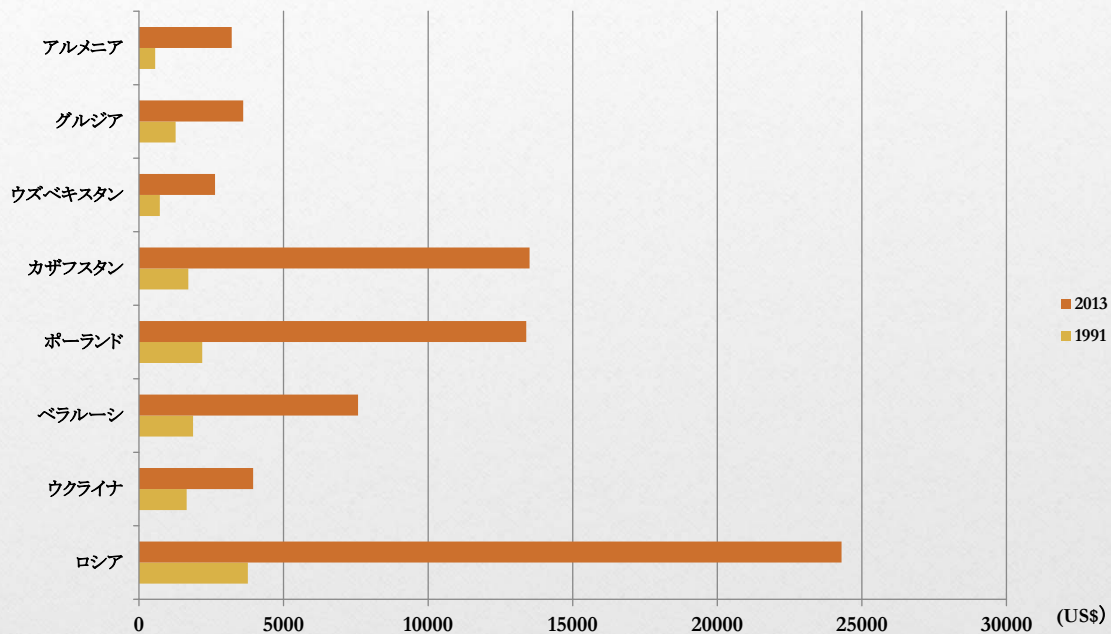
- Sea Change とは
- 冷戦後25年、新しい冷戦か？
- ウクライナ危機
- 2018年後もプーチン以外の選択はない(54%)
- 制裁から危機へ
- 世界経済危機？原油価格が低下、OPEC総会
- ルーブリ暴落、世界危機の引き金か
- 経済面では紛争含み
- ロシアの東方志向
- 2015年、とくに日ロ関係は？

I ウクライナ危機

- ソチ五輪、同性愛婚、ウクライナを巡るEUとロシア
- 2月、間違えたクーデター？『ヤヌコビッチ政権から暫定政権へ』
- 3月、クリミア併合
- 4月、『新ロシア』、反オリガルフ決起から内戦へ
- 制裁の激化
- マレーシア機撃墜で国際紛争へ
- 9月ミンスク合意の背景＝6月フィンランド仲介、IMEMO(ティンキン所長)、トラックII (Boisto)で24項目合意、
- ミンスクII？



国民所得比較(1991-2013)



ハイブリッドな民族形成＝崩壊含み



ポロシェンコ体制は崩壊か？再建か？

- 二つのセンター・和平派ポロシェンコ大統領と戦争派=親米ヤツェニユーク首相—路線対立
- ウクライナはいくつあるのか？(構造的な東西対立)
- 半破綻経済のウクライナ=未熟な国家体制、腐敗と政争、ロシアの補助
- 欧米やロシアも紛争に巻き込まれ



ウクライナはEUと関係＝「脱露入欧」

- ロシアは東部(約7%の人口)「新ロシア」独立は断念
- ウクライナの対応は Hybrid War 社会保障の削減、社会不安造成で、ロシアの影響を削減？
- NATO加盟案—ポロシェンコ、しかしメルケル反対
- 「ロシア世界(Mir)」という拡張政策、西側のロシアへの不信だけでなく、残りのウクライナ人をも敵にした。
- つまり「ロシアの平和(Mir)」を破壊。
- カザフスタン、ベラルーシもこの考えを支持せず。

コロモイスキーとアフメトフ —なぜ停戦出来ないか？



II プーチンの選択

- プーチン大統領の支持率は85% (2014年12月末) = 外交路線
- プーチン大統領は2018年大統領選、残る10年間で構想中
- 2018年以降の大統領支持も55% (1月レバダ・センター)、54パーセントはプーチンに変わる政治家ない。
- 欧米の金融を中心とした制裁リスクで成長低落。
- 制裁はもともと国際化した部分への打撃。
- 原油低落、ルーブリ下落、政治危機？
- 社会経済的には抵抗の増加を予測 (クドリン系シンクタンク)
- クリミアでの制裁レジームは長期覚悟 (12月教書)。
- プリマコフ提案 (1/15)、反中央集権、連邦主義、反孤立主義。

危機の米欧口関係

- 英米主導型世界の限界？
- 米国政府がウクライナに積極関与、米移民票、ロシアとの経済的関与の少なさ、
- ウクライナ・イデオロギーにおける欧米ディアスポラの影響
- 米国、キッシンジャーとネオコンの関係
- ロシア: ロシアとCISの特殊な関係 (ウクライナに1100万人のロシア人)、「ロシア世界」、ロシア版モンロー主義
- 『レジーム・チェンジ』と『プーチン・コンセンサス』の戦い？

12月急旋回

- 石油価格低下、サウジと米国の陰謀か？それともサウジのシェール石油つぶし？
- Bandar bin Sultanとプーチン(2013・7)、シリア、ソチ、チェチェン
- 最適価格はいくらか？86-75ドル？
- いつ回復するのか？プーチン大統領『せいぜい2年』
- 『1年半』ドミトリエフ氏の見解、制裁で借り換え不可、ドル不足？
- ロシアの外貨準備高
- クドリン元財相、政府復帰か？

Ⅲ 『脱欧入亜』するロシア

- プーチン・コンセンサス
- 脱欧入亜の論争、2014年秋、ロシアはアジアかヨーロッパか
- 「シベリアの力」パイプライン、しかし250億ドルの前払いはない
- シルクロード外交・「国家資本主義」を推進する中国
- アジア・シフト＝スエズ運河からマラッカ海峡に至る従来の大道は不安定化
- 北極海をへて極東に至るルート的重要性
- 人類最後のフロンティア？＝シベリア・極東
- ロシア・極東を新たなハブへ
- 極東発展省と『優先経済発展区』構想



ロシアの脱欧入亜

- 中ロの技術同盟(ラブロフ)？
- アジア・シフト＝スエズ運河からマラッカ海峡に至る
大道は不安定
- ロシア・極東を新たなハブへ、ウラジオストック＝自由
港
- ウラジオ地域の開発ハサンⅡなど
- ガルシカ極東相ら『優先経済発展区』
- ツイルコフスキー建設は？
- 北朝鮮は対ロシアトへ(企業もルーブリ決済)

中ロ関係

- 世論調査も、西側世論を気にするな(57%)、ロシアを西が弱体化(40%)
- 2014年28パーセントがCISをパートナー、2015年は5割が中国(いずれもレバダ・センター1月20日閲読)
- もっとも専門家レベルでは、中国の人民元の世界にロシアが取り込まれる。
- 中国は「シベリアの力」パイプライン建設協力などを通じて、「川上」を狙う。
- 前払いしない中国
- 11月アルタイ計画急浮上の背景
- カザフスタンの運命?(4割以上エネルギー資源を中国が握る)
- 外交面で5-7年後には中国の決定に従うジュニアになりうる(評論家F・ルキヤノフ)

残された課題

- 経済停滞(エネルギー、インフレ、制裁)とどう立ち向かうか
- 政府の交代はあるか
- BRICSはなくなるのか
- 経済は2017年から回復するのか(経済学者ドミトリエフ)
- 極東開発の重点はどうなるか
- 北極圏は停滞か
- 日ロ関係の展望は